



# ピオトープ・ニュース060

発行日 2013/12/08

発行：日本ピオトープ管理士会 徳島支部  
 事務局：徳島市山城町東傍示5-281 新弘測量設計㈱内  
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

## ■ピオトープ・サロン 生物多様性保全と日本ピオトープ管理士会徳島支部

徳島支部は、会員の研鑽の場とした定例会を主な活動として発足しました。その後、定例会に代えてのピオトープ・ニュースの創刊から5年、今号は来年の“みちるべ”にと、今年1年をふりかえってみました。（編集部）

### 【行く年、来る年、】

#### ■行く年（2013年）

##### 1. ピオトープ・ニュース049～060発行

生物多様性保全に関連する活動や話題について、情報紙を12回発行（配信）しました。

##### 2. 生物多様性とくしま会議参画

###### 1) 徳島・生物多様性博覧会支援

多様な主体が連携して開催された博覧会開催の展示準備等に協力しました。

###### 2) 人材育成プログラムの実施支援

NACS-J 自然観察指導員講習会、まち里部会における“食と自然と人のつながり”等において、その実施に協力しました。

##### 3. カワバタモロコ増殖・放流連絡会議参画

###### 1) 連絡会議

ワークショップや繁殖状況報告会等に参加し、課題抽出及び意見や提言のための協議に参加しました。

###### 2) 調査等実践活動

事業所における繁殖状況調査に参加し、現状の把握と改善活動に参加しました。

##### 4. 徳島県立佐那河内いきものふれあいの里連携

ネイチャーセンターにおける県民参加型ポスター展示、ピオトープの保全・創出の活動団体への支援に協力しました。

##### 5. 徳島県ピオトープ・アドバイザー派遣事業連携

###### 1) 学校のピオトープ活動支援

県内2市1町において、学校ピオトープの構想、活用、維持管理等について、助言や協力を行いました。

###### 2) 公共施設のピオトープ活動支援

県内の市営クリーンセンターのピオトープ関連活動において、2回にわたり助言を行いました。

###### 3) 事業所のピオトープ活動支援

再生可能エネルギー施設用地内におけるピオトープ創出について助言を行いました。

###### 4) 地域のピオトープ活動支援

環境保全団体の里山活動の事前学習会において、ピオトープの基礎学習と活動への助言を行いました。

##### 6. 地域のピオトープ活動支援

地域の活動団体におけるピオトープ拡張計画への助言等、活動を不定期・継続的に協力しました。

##### 7. その他の連携・協働

持続可能な開発のための教育の10年(ESD10)の推進に関する意見交換会への参加、公益財団法人日本生態系協会及び日本ピオトープ管理士会の事業活動等への協力・支援を8回行いました。

#### ■来る年（2014年）

徳島支部は、2004年9月に12名の発起人によって設立準備が進められ、本部承認を経て2005年3月に発足しました。そして、現在の会員は、正会員15名、準会員8名、賛助会員5社で構成しています。

ふりかえれば、会員の相互支援と情報交換による研鑽の場とし、会員各人の仕事、活動や生活において、ピオトープ（野生生物の生息・生育空間）に関連する事業や活動を様々な主体からの要請に応じて支援してきました。

来る年、2014年は10年の節目の年を迎えます。図らずも、生物多様性とくしま戦略(2013年10月)が策定され、2014年はその始動の年ともなります。そこで、生物多様性保全の立場から、ピオトープの保全や創出による持続可能な土地利用のために、次の10年に向けての新たな一歩を踏み出す年でありたいと願っています。

支援者から主体者への発展、これが望ましい姿ですが、それぞれの会員の実情からは困難を極めます。しかし、会員有志からは、様々なテーマの活動を望む声もあがっています。そこで、まずは個人活動からプロジェクト・チームとしての支援活動への進化を試みます。これを実現するために、会員が相互に協力し、多様な団体と連携を図り、一層の研鑽に励み、行動へとつなげて行きましょう。



都市での活動



里地での活動



里山での活動

**■ビオトープ・サロン 徳島県ホームページからの話題 ～生物多様性とくしま戦略～**

2013年10月30日、生物多様性とくしま戦略が策定されました。ダウンロードできます。 (編集局)

**【生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会の実現を目指して】**

**■長期展望**

1. 川・海・汽水域…食べて、遊んで、子どもに継がせられる川・海
2. まち・里……人と生きものの折り合いがついた命豊かな土と水と緑を取り戻した社会
3. 奥山・里山……自然林、里山、人工林がバランスよく配置され流域単位で活用されている山

**■戦略の4つの方向性**

- (1) 本県固有の自然特性と生物の生息・生育環境の継承
- (2) 生態系サービスを活用した防災・エネルギー・森林保全等の問題への対応
- (3) 人口減少社会の中での自然との共存
- (4) 地域資源としての生物多様性と生態系を守って活かすための社会の仕組みづくり

**■戦略のダウンロードはこちら→<http://www.pref.tokushima.jp/docs/2013103000318/>**

**ビオトープ・サロン お便りコーナー**

前号の【安全安心の落とし穴…安全な農薬とは?】のIGR(昆虫成長制御剤)について、Iさんから情報をいただきました。「虫を殺したキレイな野菜」「虫が食べた安全でおいしい野菜」あなたはどちらを選びますか? (編集局)

**【Iさん：2013/10/09】**

IGRに限らず、農薬の登録に必要な試験には、生態系に対する影響確認もあります。実験室でも試験しますが、ほかに、散布後に対象外のただの虫等の復活の具合を調査したりします。食物連鎖、生物濃縮の試験もあります。しかし、対象の害虫と同じようなグループの昆虫には、影響があると考えます。

どのくらいまでの範囲を試験できるか、どの程度で妥当かということも問題で、この生態系への安全評価が甘いと感じている人はいると思います。これが弱いので、ミツバチやツバメへの影響が取りざたされるのでしょう。

昭和の時代の殺虫剤農薬は、言葉は悪いですが、「いろいろな虫に効果があるタイプ(皆殺し型)」と「長い効き目タイプ」が重宝されていました。

これが改善されてきて、IGRは、そのタイプと比較したら、改善へ進歩しました。しかし、それで十分なのかという疑問はつきまといます。この改良の余地は、農薬会社の新製品の目標になっていきますけど。

こんなことに加えて、稲作で言えば、機械化、乾田化、ほ場整備、作付けの前進化、化学肥料の多用と、ただの虫の立場に立つと、厳しい厳しい。

空想で書かれていますが、虫食い野菜が並ぶのが効果的です。一番なのは、とてもキレイな農作物を要求する、流通段階の評価を見直させることだとも、言われています。

**■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!**

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより

**無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 (編集局)

**【施工部門の択一問題：正答と解説は次号で紹介】**

**問060：環境に配慮した農業用水路の整備技術として、誤っているものはどれか。**

1. 縦断勾配はできるだけ緩勾配とし、渇水時の水生生物の避難場所が確保できるよう、深みを部分的に設ける。
2. 地形勾配が急なところに水路を作る場合には、落差工の落差が大きくなるため、できるだけ落差工の数を少なくする方が望ましい。
3. 動物が水路に転落したり水路を横断したりする場所では、スロープや階段工を設けたり緩勾配とする。
4. 水路内では、水の滞留部や浅瀬をつくり、異なる流速を発生させるように工夫し、落差工の下流側には魚類がジャンプしやすいように深みを設ける。
5. 水路断面に余裕がなく、水路内の植栽のために植栽ブロックを用いる場合には、地域在来の植物を用いる。

**■前号059の正答「1」**

開発事業者と地域住民の関係は、次の点に留意する。について①事業主体である行政は、事業に直接関係する地理的範囲の地域住民だけでなく、広く公開し説明する責任があります。②地域住民は、公共事業の進捗の妨げとなる環境情報であっても、環境へ及ぼす影響を低減するために、それを事業主体へ伝達することが求められます。③事業主体は、事業の実施計画や対象地域の環境情報などを開示し、地域住民や関係組織などと情報を共有することが求められます。④環境への影響を低減する対策のうち、貴重種の移植作業などのように地域住民が参加することができるものは、広く協力を呼び掛けて行います。⑤地域の幼稚園、小中学校などの子供たちが参加する環境保全対策の実施は、環境教育の側面からも効果が期待できます。

**※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)**

**■編集後記**

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください! 編集局

[E-mail : [kanv@nifty.com](mailto:kanv@nifty.com) URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]